

万博にかける期待

関西経済連合会会長／住友電気工業会長

松本正義
まじもと まさよし



2018年11月23日、フランス・パリで開かれた博覧会国際事務局(BIE)総会にて2025年国際博覧会(万博)の開催地が大阪・関西に決定した。あの歓喜の瞬間から早くも3年以上が経過したのか、と感慨深いものがあるが、一方で、開催まであと3年しか残されていないことに目を向ければ、改めて身の引き締まる思いだ。

皆で勝ち取った万博誘致と 次回万博への課題

振り返ると、日本政府が2025年万博の誘致を目指し、BIEに立候補を届け出たのは2017年4月24日であった。フランス、ロシア、アゼルバイジャンと4カ国で誘致を争うこととなった。私が森詳介前会長からバトンを引き継ぎ、関西経済連合会の会長に就

任したのはその直後の5月29日である。併せて「2025日本万国博覧会誘致委員会」(会長・榊原定征経団連会長(当時))の会長代行にも就任し、万博誘致が私にとって最大のミッションとなった。

万博を誘致していることすらまだ多くの方に知られていないというゼロからのスタートであった。関西はもとより全国の方々の賛同の輪が広がり、結果として、誘致賛同の署名数は約133万人、誘致委員会の法人会員数は6000社、誘致活動への寄付についても290社という、多くの皆様の支援を得ることができた。関経連として、パリへの専任担当者やの派遣・常駐、各国政府とネットワークのある商社の皆様のご協力の取り付け、などなど、打てる手は全て打つとの思いで取り組んだ。こうした過程で常に私の頭にあったのは、

1970年に大阪で開催された万博が、大きな遺産と大きな教訓を残しているということだ。まず、遺産としては、万博に対する当時の熱い興奮が、今でも多くの方々的心里にしっかりと残っており、それが世代を超えて、万博に対する期待感の醸成に大きな役割を果たしたということを実感している。さらに当時の若い才能が建築やファッション、展示などで勇躍し、その後の活躍の礎となった。

教訓としては、前回の大阪万博が開催された1970年が、全国GDPに占める関西経済のウエートのピークに当たり(約2割)、その後はそれがじりじりと低下を続け、直近では16%を切るまでになったことが挙げられる。つまり、関西は万博をその後の飛躍に結び付けることができなかった。我が国としても、これを教訓として、次回の万博を単なる一過

大阪・関西万博決定の瞬間



左から世耕国際博覧会担当大臣(当時)、榊原誘致委員会会長(当時)、松井大阪府知事(当時)、松本会長

性のお祭りに終わらせることなく、いかに将来へのスプリングボードとすることができ、かが大きな課題であると思う。

多様なアイデアを惹き付ける舞台としての万博

近年の万博では、「世界の課題解決」に向けた英知を持ち寄る場としての役割が重視されている。2025年万博は、SDGsの達成、さらにその先を見据え、「いのち輝く未来社会」を実現するための様々なソリューション・アイデアが世界中から集まる最高の舞台

となる。私自身も、誘致の際から大阪・関西でその舞台が実現することを強く願ってきた。

2020年の12月に関経連では、長期ビジョン「関西ビジョン2030」を策定し、その中で関西の「ありたき姿」として「ヒトを惹き付ける舞台」を掲げた。万博が、まさに世界から多様なアイデアを惹き付け、化学反応を起こす「舞台」となれば、大阪・関西、我が国が世界に対してできる大きな貢献となる。関経連としても、全国、世界の方々に最高の舞台を用意できるよう、全力で取り組む覚悟である。

ナショナル・プロジェクトとしての万博

万博開催はいよいよ3年後に迫ってきた。未だに2025年大阪・関西万博は大阪・関西のローカルイベントと受け取られる向きもなくはないが、万博は大阪・関西のための事業ではなく、真正正銘のナショナル・プロジェクトである。

日本政府においては、大阪・関西万博を我が国全体の成長に向けたプラットフォームとすべく、省庁の枠を超えた取り組みを進めていただいている。2021年末に政府が初めて策定した「大阪・関西万博アクションプラン(Ver.1)」には、「いのち輝く未来社会のデザイン」や「未来社会の実験場」にふさわしい数多くのアイデアが各省庁から出され、

規制緩和、財政的・技術的支援のメニューが数多く盛り込まれている。今後、半年に1度のペースで改訂し続ける予定と聞いている。政府を挙げた動きが目に見えてきており、とても心強く思う。

全国の企業の参画を

私ども地元経済界、博覧会協会、政府、自治体は、今回の万博を、世界中から課題解決の英知を集結させ、日本全体、世界全体が主役となる舞台とするために手を尽くしている。参加表明国も150カ国・25国際機関の目標に対し86カ国・6国際機関(3月4日現在)まで伸びてきた。

経団連会員企業の皆様には、この舞台をそれぞれ大きなチャンスと捉えていただき、大阪・関西万博に参画し、大いに活用していただくよう、お願いしたい。そのためには、開催まで3年となった今、全国レベルの機運の醸成が必要だ。自分としても各地域の経済団体の方々に、万博への協力と参画を呼び掛けてまいりたい。

万博の会場となる夢洲は大阪湾に面し、大阪市内にありながら、明石海峡や淡路島、阪神間の街並み、関西国際空港や歌山までを一望でき、海と空を実感できる素晴らしいロケーションである。この地で、日本中、世界中の皆さんとともに「いのち輝く未来社会」の姿を描けることを心から楽しみにしている。